



三昼夜にわたるたたら吹き

世界農業遺産、日本農業遺産の認定に向けて

～奥出雲町農業遺産推進協議会の設立～

奥出雲町のたたら製鉄に由来する資源循環型で持続可能な農業システムを世界農業遺産（GIAHS）、日本農業遺産として認定を受けるため、8月30日、「奥出雲町農業遺産推進協議会」が設立されました。

奥出雲地域では、古くからたたら製鉄による鉄づくりが盛んに行われ、鉄穴流しによる農地の開拓や山林の輪伐、焼畑などによって、現在の農業や林業、畜産業の基礎をつくりあげました。

本町の代表的な特産物である仁多米やソバ、椎茸、奥出雲和牛の4つをキーワードに据えて、たたら製鉄に由来する農業システムの価値を整理して、平成29年度以降に農林水産省へ申請する予定です。



たたら製鉄の歴史が生み出した奥出雲町の特産物

設立会議では、農林水産省中国四国農政局農村振興部の田井浩朗農村環境課長から「認定にあたって、地域農業を将来に継承し、発展させることが求められる。また、農業システムの保全に向け住民の理解と協力が不可欠である。」と話がありました。

今後、地域の関係団体、農林業関係者の代表らで構成する推進協議会委員により、認定申請の内容等の検討を行っていきます。

奥出雲病院で医療見学体験会・インターンシップ

8月8日、17日から19日にかけて横田高校生の希望者を対象に、町立奥出雲病院で医療見学体験学習会・インターンシップが開催されました。

これらは、医療職の将来的確保などを目的に開催されており、体験学習会に12名、インターンシップに1名が参加しました。

体験学習会では、生徒が白衣などに着替えて、入院患者の食事や車椅子の介助、検査機器の取扱いや電子カルテの操作などを体験し、最後に生徒全員でBLS（一次救命処置）研修を受けました。また、インターンシップで理学療法士を希望した生徒は、「ただリハビリをするのではなく、患者様に寄り添ったコミュニケーションをとって、地域の方々との繋がりがとても大切だと分かった。この体験を自分の将来に活かしていきたい。」と改めて自分の進路を見つめ直す機会となったようです。



BLS研修の様子

四国四郡市総合体育大会

8月7日、岡山県新見市を会場に第66回四国四郡市総合体育大会が開催され、仁多郡選手団は10競技に約200名参加しました。結果は左記のとおりでした。

順位	郡市	得点
優勝	岡山新見	62点
準優勝	広島庄原	43点
第三位	鳥取日野	38点
第四位	鳥根仁多	33点

日本遺産

連載その1..日本遺産とは

今年4月25日、文化庁から認定を受けた日本遺産「出雲國たたら風土記」鉄づくり千年が生んだ物語」は、安来市、雲南市、奥出雲町の3市町に根付く、たたら製鉄に育まれたこの地域の風土を象徴する物語です。

今月号から数回にわたって、3市町の広報紙の合同企画として、その物語をご紹介します。初回である今月号では、日本遺産とはそもそもどのようなものか、ご説明します。

日本遺産とは

日本遺産は、地域の歴史的な魅力や特色を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリー（物語）のこと。歴史的な経緯や地域の風習に根ざし、世代を超えて受け継がれている伝承等が含まれていることが重要視されます。日本遺産認定は、世界に誇る日本の伝統・文化として国からお墨付きをもらったということになります。

出雲國たたら風土記

鉄づくり千年が生んだ物語

出雲國たたら風土記

ストーリー概要

日本古来の鉄づくり「たたら製鉄」で繁栄した出雲の地では、今日もなお世界で唯一たたら製鉄の炎が燃え続けています。たたら製鉄は、優れた鉄の生産だけでなく、原料砂鉄の採取跡地を広大な稲田に再生し、燃料の木炭山林を永続的に循環利用するという、人と自然とが共存する持続可能な産業として日本社会を支えてきました。

また、鉄の流通は全国各地の文物をもたらし、都のような華やかな地域文化も育みました。

今もこの地は、神代の時代から先人たちが刻んできた鉄づくり千年の物語が終わることなく紡がれています。

問合せ

鉄の道文化圏推進協議会

<http://tetsunomichi.gr.jp/>